

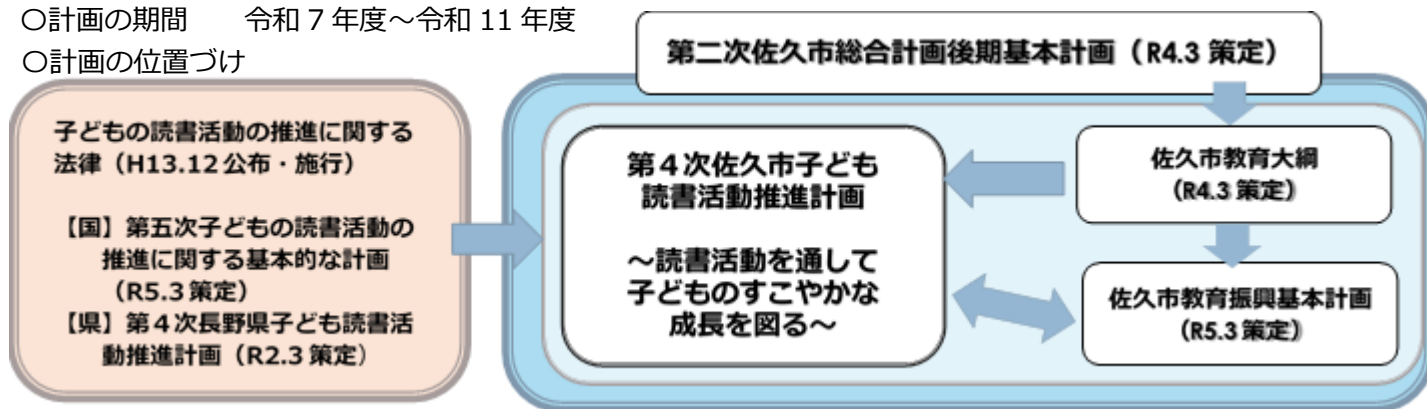
第1章 第4次計画の策定にあたって

○計画の趣旨

本市では、「第3次佐久市子ども読書活動推進計画」を令和2（2020）年8月に策定し、様々な取組を実施してきた。その中、教育における情報化の進展、読書バリアフリー法の制定などの情勢の変化に即した内容とするため、第3次計画期間での成果と課題を踏まえ、「第4次佐久市子ども読書活動推進計画」を策定する。

○計画の期間 令和7年度～令和11年度

○計画の位置づけ



○計画の対象 0歳から概ね18歳

○計画の推進と評価

- ・家庭、幼稚園・保育所・認定こども園等、学校、市立図書館・関係機関などが、それぞれの役割に応じた取組を実施し、相互連携によって各取組の効果を高める。
- ・市ホームページに掲載し、市民と各関係機関への周知を図る。
- ・「佐久市子ども読書活動推進懇話会」において計画の実施状況を確認し、検証を行う。

※第3次計画からの変更点

○取組のまとめ方：子どもの発達段階ごとの取組 → 推進主体ごとの取組

○高校生期（ティーンズ世代）の取組の推進主体

家庭・学校・市立図書館 → 家庭・市立図書館（市立図書館が学校図書館と連携・協力し働きかける）

第2章 現状と課題

取組期間における現状の把握及び評価は、家庭と各教育機関を対象としたアンケートと昨年度までの統計に基づいて行った。

	現 状	課 題
乳幼児期	多くの家庭では読み聞かせの大切さは理解され、幼稚園・保育所・認定こども園等でも保護者への働きかけがされている。しかし、読み聞かせを全くしていない家庭もある。	関係部署等は状況に応じて必要な支援を行い、社会全体で家庭の読書を支えていく必要がある。
小学生期	小学生は、読書をしたり、図書館を利用したりする割合が中学生より高い。しかし、約1割が家庭で読書をしないと回答している。	学校図書館、市立図書館が連携をとり、より一層読書活動を推進していく必要がある。
中学生期	中学生で読書をするという回答した生徒は5～6割程度。利用しない理由として「時間がない」が最も多く、「本に関心がない」「読みたい本がない」と回答している。	本を読まない子どもたちを意識した取組をする必要がある。
高校生期	読書をするという回答した高校生は約5割。学校図書館、市立図書館を利用する高校生は約2割で、図書館はほとんど利用されていない。読書の時間が少ない理由として、「スマホやテレビがみたい」と回答する生徒が年々増えている。	市立図書館は学校図書館と連携し、デジとしよ信州 ¹ の活用も含め、読書活動の推進をしていくことが望まれる。
特別な支援を必要とする子どもへのサービス	市立図書館にパソコンなどでくることが出来る録音図書（DAISY 図書）、点字図書、やさしく読みやすいLLブックはあるが、資料面、サービス面で十分とはいえない。	特別な支援を必要とする子どもの読書支援、読書環境の整備をすることが求められる。

¹ デジとしよ信州：長野県内の市町村と県とが協働で取り組んでいる電子図書館。R4（2022）年より開始。長野県民であれば誰でも利用できる。

第3章 第4次計画の基本的な考え方

基本理念	読書活動を通して子どものすこやかな成長を図る
基本方針	・子どもの読書環境の整備、充実 ・家庭、幼稚園・保育所・認定こども園等、学校、図書館、行政の連携と相互協力 ・子どもの読書活動に関する普及・広報活動の推進

第4章 子どもの読書活動の推進のための施策

推進主体	主 な 内 容
家 庭	○乳幼児期における読み聞かせの習慣化…おはなし会への参加【継続】 ○ブックスタート、セカンドブックの絵本の受領【継続】 ○大人の読書の勧め【拡大】
幼稚園・保育所・認定こども園等	○おはなし会活動の充実…読み聞かせの実施【継続】 ○絵本の貸出…市立図書館を利用した貸出用絵本の充実【継続】 ○保護者に向けた啓発活動の充実…身近に本のある環境づくりの啓発【継続】
小中学校	○学校図書館の環境整備【継続】 ○読書活動の充実…読書活動の時間の確保と読書活動（朝読書）の推進【継続】 ○情報活用能力の育成…デジとしよ信州の活用【拡大】 ○関係機関との連携・協力…市・県立図書館と連携し相互貸借、レファレンス²の実施【継続】
市立図書館等	○資料の整備・充実…子どもたちが興味をもつ本、調べ学習に役立つ資料等の収集【継続】 ○読書通帳の利用拡大【継続】 ○子ども読書の日（4/23）、こども読書週間（4/23～5/12）の取組【新規】 ○多様なニーズのある子どもの資料の収集・環境整備…りんごの棚³を設置し、資料、サービスの紹介・提供【新規】 ○レファレンス・読書相談の充実【新規】 ○ティーンズ（ヤングアダルト）⁴コーナーの設置・充実【新規】 ○探究学習の支援…「デジとしよ信州」、図書館で契約しているデータベースの紹介【新規】 ○子どもの読書に関わるボランティア団体等の情報提供・交流【拡大】 ○庁内部署や市内の他の機関との連携…イベント関連資料の展示の実施【拡大】

【数値目標】

	現状（R5 年度）	目標（R11 年度）
おはなし会の参加人数	1,215 人	1,450 人
読書通帳交付件数	965 件	1,080 件
1 人当たりの貸出冊数	12.7 冊	15 冊

² レファレンス：利用者からの調べ物に関する質問や問い合わせに答えること。

³ りんごの棚：特別なニーズのある子どもを対象とした利用しやすい形式の資料や道具等を置いた図書館のコーナー。

⁴ ティーンズ（ヤングアダルト）：10代の少年少女をさす言葉。この世代は大人でも子どもでもない独自の行動様式や関心があることから、この世代に向けて図書館資料を整え、図書館サービスを行う例がある。図書館でのサービスをヤングアダルトサービスともいう。